

里山里海湖フォーラム 開催報告

持続可能な里山里海湖のための取り組みについてSDGsの視点からみた講演と、福井県里山里海湖研究所の研究成果の発表を行い、広く県民に人の生活と自然のつながりに対して理解を深めていただくフォーラムを開催しました。

1 日 時 令和3年11月14日（日）13:00～15:45

2 場 所 福井県立図書館多目的ホール（福井市下馬町）

3 参加者 会場46名、オンライン聴講申込51名

4 内 容

(1) 開会あいさつ

福井県里山里海湖研究所 進士五十八所長
自らの恩師である井下清氏と渋沢栄一氏が東京の井の頭恩賜公園の開園に携わった
ヒューマンストーリーを紹介し、年齢に関係なく人と人のつながりが社会を作りだすと
あいさついただいた。



(2) 里山里海湖講演

講師：NPO共存の森ネットワーク理事長 渋沢 寿一氏

演題：渋沢栄一の夢と未来の社会～SDGsの視点から～

曾祖父である渋沢栄一が日本に持ち込んだ資本主義が時代とともにどう変わってきたか、国連が提唱するSDGsの本質は何かを自らの海外での自然保護活動の経験を交えて紹介いただいた。特に縄文時代から続いた里山での人間生活がこの60年で大きく変化したことを取り上げ、自分主義的な風潮となった現代社会は持続可能ではないと説明。エネルギーだけではなく食料や娯楽、医療、教育等の全ての分野で地域内での循環を生み出すことが里山を含めた社会の持続可能につながることで、さらには人と人、人と自然、世代と世代のつながる社会を取り戻すことが必要であるとお話いただいた。



(3) 里山里海湖研究発表

里山里海湖研究所の研究者3名による研究成果や活動報告を行いました。

- ① 樋口潤一／湖の漁師は、農家で猟師
- ② 石井 潤／三方五湖と田んぼのつながりを再生する～田んぼでのコイ・フナ育成活動～
- ③ 宮本 康／あなたの知らない浦見川

